

免疫代謝内科学分野内科Ⅱあるいは泌尿器科に通院・入院された患者さん
またはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報や検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 腎・泌尿器疾患におけるIL-6アンプを介した病態発症機構に関する研究

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 渥美 達也

[研究責任者名・所属]

村上 正晃・北海道大学遺伝子病制御研究所大学院医学院分子神経免疫学教室・教授

[解析施設] 北海道大学遺伝子病制御研究所大学院医学院分子神経免疫学教室

[研究の目的]

慢性炎症性疾患の検体を用いて炎症病態を詳しく調べ、慢性炎症性疾患の治療法の向上に役立てるためことを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2000年1月以降に免疫代謝内科学分野内科Ⅱあるいは泌尿器科で急性腎炎、慢性腎炎、嚢胞性腎疾患、腎移植後の拒絶病態の治療を受けた方で、研究目的で臨床検体を保管されることに同意された患者さん

○利用する検体・カルテ情報

検体：組織検体、血液検体、尿

基本情報：年齢、性別、最終観察日、術後転帰

疾患情報：疾患名、手術名、治療内容、再発の有無、病理組織学的所見など

その他検査情報：血液生化学的検査結果（肝機能（T-Cho、T-Bil、D-Bil、LDH、GOT、GPTなど）、画像検査所見（CT、MRI、エコーなど）

この研究は、当院の関連病研究グループで腎・泌尿器疾患の病態発症機構の研究を行っている機関で実施します。上記の検体は、ナノデバイスによる1分子解析のために、大阪大学産業科学研究所および名古屋大学に送付します。上記のカルテ情報は、病態重症度との相関性を解析するために電子的配信で送付します。また、上記の検体はリンパ球分画からリンパ芽球を株化して実験に使用場合があります。リンパ芽球の株化に関しては東京医科歯科大学難治疾患研究所に送付し行なってまいります。

[研究実施期間] 実施許可日～2025年12月31日（登録締切日：2025年3月31日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報・検体を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

【共同研究者】

- ・谷口 正輝 大阪大学産業科学研究所バイオナノテクノロジー研究分野
- ・安井 隆雄 名古屋大学大学院工学研究科生命分子工学専攻分子生命化学

[連絡先・相談窓口]

- ・北海道大学遺伝子病制御研究所大学院医学院分子神経免疫学教室
特任講師 久保田 晋平
北海道札幌市北15条西7丁目 電話 011-706-5120 FAX 011-706-7542